

第 63 号  
 発行日：平成30年10月1日  
 発行所：  
 東京青山同窓会事務局  
 〒111-0032  
 東京都台東区浅草 3-8-2-1101  
 工藤 義夫 (74回)  
 e-mail:kudou74@tokyo-aoyama.org  
 TEL:090-1704-2413  
 発行者 日下部朋子 (82回)

# 東京会報

**東京青山同窓会**  
 一東京青山同窓会年間維持費一  
 1口1,000円/2口以上(年間)  
 会計幹事：川上康夫 (79回)  
 振込先：極力①をお願いします。  
 ①郵便振込口座 00150-9-4074  
 加入者名 東京青山同窓会  
 ②三井住友銀行京橋支店 普 8430640  
 東京青山同窓会 会計幹事 川上康夫

## 『平成30年度 東京青山同窓会(総会兼新人歓迎会)』報告

平成30年6月15日(金) “新会場” 「アラスカ」日本プレスセンター店

工藤義夫 74回

日比谷公園が一望に見える“新会場”での同窓会”。梅雨寒の金曜夕べ、126回卒新人12名など105名が集う。新人にはもっと多くの参加を期待するも中々忙しらしい。今回は従来の2時間から3時間に延長1,2次会兼用。1部2部司会は今回多数参加した柔道部の事務局81回卒の成海孝二さん。

冒頭の総会では、佐藤会長や青山同窓会副会長から先に当選した花角新潟県新知事が85回卒との紹介も。会務・会計報告では財政回復と今後の魅力的な活動方針等をご承認頂く。

渡邊毅青山同窓会副会長は、講師吉田真吾氏が高校時代勉学・ピアノともに優れ東大か東京芸大かの進路に迷っていたとのエピソードも紹介。

そして、飯田学校長からは母校音信として、伝統の青陵祭も先週盛大に行われ、今春の進学実績も堅調、在校生数の女性優位傾向や、文化スポーツ活動の顕著な実績、東京夏季企業

研修への支援感謝等々を語られた。

第2部の講演は、吉田真吾東大地震研究所教授(85回)から「1964年の新潟地震」と題し、その特異な影響や知見などが、その後の我が国の多様な地震の解明や影響予測等にも貴重な教訓を与えた状況を多彩な図表等も交えて説明された。2点の質問にも懇切に答えた。

次に、フレッシュ新人コールへ。122回卒の田中麟太郎さんが12人(女子7、男子5と卒業生男女比相似か?)を紹介、返礼は男女各1名、出席通知各一番の男女、佐藤真生・長浜朱音さんが伸びやかに抱負を語る。佐藤さんは大学では地方の高校でこうした東京同窓会に出られるのは羨ましいとも聞き、長浜さんも漸く東京に慣れ、今は学ぶのが楽しいとも。

第3部司会は102回卒柔道部の尾口優子さん。最長老の59回卒の長橋敏雄先輩の乾杯発声で、漸く、飲食

懇親モードへ全面移行となる。

そして今宵のスペシャルゲスト音楽家今井あいさん(105回卒)がバリから参加、本場欧州で活躍する「生歌唱」を聞ける機会を得た。和洋8曲を新潟からのピアニスト栄長敬子氏伴奏とともにコロラトゥーラ・ソプラノの美声を堪能、さながら上質の夜会の様。飲食・お喋りの渦の中でさえも、その声は広く会場の空間を賑わし響き渡った。

さらに、集合写真、新人との校歌・応援歌斉唱。新人の庭野ほのか・山田泰聖さんよるNHK全国優勝の放送部紹介、“もり・りんたろう(!)”両氏による秋のカジュアルますらお会の案内など、盛り沢山、夜9時半終了・解散。料理の美味と美酒。長くも束の間のコアタイム。元号改正で平成最後となった東京同窓会はこの新会場でお開きに。

来年もまた、新しい顔、懐かしい顔に会えることを楽しみに…。東京青山会の今後のますますの盛会を期して。

### “126回卒新人12名の計105名”～ 講演とミニコンサートも <新会場にて!>



会場の風情

備え付けのピアノも

眼下には日比谷公園の黄昏

会場



# H30年度 総会 & 126回卒新人歓迎会 ～ハイライト

【講演会】『1964年新潟地震  
～現代への教訓』

よしだ しんご

【講師】吉田真吾様  
(85回卒)

【略歴】 東京大学地震研究所教授  
地震火山噴火予知研究推進センター



(柔道部OB)

★横顔紹介★

地震発生の物理的解明に取り組む。岩石破壊実験等を通じて地震破壊過程と物理現象の相互作用、アスペリティ(プレート境界固着とすべり)との相互作用等の理解を深め研究を進めている。

【ミニコンサート】～パリの歌姫～  
コロラトゥーラソプラノの調べ～特別出演

【声楽家】今井あい様  
(105回卒)



【略歴】

★横顔紹介★

パリとNYCで声楽を学んで、現在パリに定住し、ソプラノ歌手として欧州等で精力的に活動中。～パバロッチェやドビュッシがお気に入り～「夢は平和と愛で人々を幸せで繋ぐ、そのために歌う」。日本の素晴らしさを振り返り、日本歌曲を通じ美しい日本の心を伝える活動も続ける。青山105回、学習院大法学部卒、外交官を目指す傍ら、歌の才能を見込まれレッスンも受講～。



吉田真吾 講師

佐藤真生

～ 126回生の新人たち

～ 長浜朱音

ソプラノ・今井あい



司会1成海

司会2尾口

佐藤会長

渡邊副会長

飯田校長

長橋先輩



宗橋敬子さん  
ピアニスト

今井あいさん  
(105回)

# 会長挨拶

東京青山同窓会会長 佐藤 信秋74回



～会長の言葉～

2018年9月

今年は、冬の豪雪にはじまり、大阪北部の震災、西日本の豪雨災害、夏の異常高温、台風21号の強烈な風と高潮の災害、そして震度7を記録した北海道胆振東部の震災と、災害が次々と襲いかかってきた年です。今迄になかった、「記録的」な雨量や高温が続きます。こうした年に新潟の「安全安心第一」「住んでよし、訪れて良しの新潟」と呼びかけ、(85回卒)花角知事が誕生したことは大変意義あることと、その活躍におおいに期待するものであります。

新潟もこれまで、中越地震、中越沖地震、水害、雪害と、毎年のように災害に襲われてきました。新潟を強く韧かにする一方で、インバウンドをはじめ、多くの人に訪れてもらえるよう皆で盛り上げようではありませんか。

# 出版紹介 ～ 『海の唄』

詩と絵 <麻砂乃里>

著者 ; 西村正徳 72回

～ ぼくの秘密は、いつも、海だけに、話してきた。  
20年間、海を見続けてきた男の、穏やかで自由な対話の記録 ～  
2017.11.9 発行 WAVE出版

“ぼくらが知っているあのころの夕日もそこにある…  
青年時代から、海をながめ、詩をよんできた著者が書き溜めた「海のすがた」がここにある。うれしいことも悩みも、自然と対峙することで、色々語りかけてくれるような気がする…という、あのころの切ない気持ちを呼び覚ます、おとな向け詩画集“

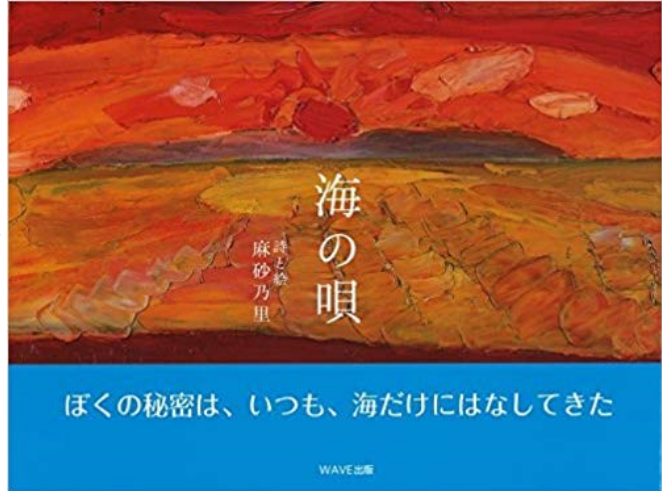
<よこがお>  
著者の西村正徳さんは西村書店の代表取締役。

医学書や芸術書  
絵本など出版販売。

東京青山同窓会の  
前の副会長でした。



(写真;2010年青山会)



ぼくの秘密は、いつも、海だけにはなしてきた

WAVE出版

「麻砂乃里」は ペンネーム

## 平成30年度予算および30年度上期決算

(H30年4月1日～H31年3月31日)

上期分：平成30年8月31日現在 (金額：円)

摘要	平成30年度 予算 (H30.4.1～ H31.3.31)	平成30年度 上期決算 (～H30.8.31)	備考 (H30年度分)
期首現預金残高	1,633,997	1,633,997	
収入			
年会費	900,000	819,000	450人；前期*0.9
総会費	600,000	502,000	総会兼新人歓迎会 (会場変更；100人)
本部補助	100,000	100,000	
雑収入計	0	60,000	
受取利息	11	6	
合計	1,600,011	1,481,006	
支出			
総会費用	700,000	757,335	総会兼新人歓迎会 (会場変更)
第3回ますらお会補助	40,000	0	
会報通信費	500,000	209,358	2回分；郵送数減。 印刷等；外注→内製
事務局費	64,000	0	
予備費	100,000	0	現行ホームページの 機能回復、利用促進
会議費	13,000	109,500	2回
手数料料	50,000	7,540	
雑費	1,000	37,264	
消耗品	0	0	
合計	1,468,000	1,120,997	
期末現預金残高	1,766,008	1,994,006	

注1) 会計年度期間；平成30年度 (H30.4.1～H31.3.31の1年間)

↑2018年8月31日現在

## ★事務局からのお知らせ★

### ・次回会報へ投稿のお願い

同期会、部会、スポレク、趣味、旅行、会員紹介等。  
(400～800字程度。写真もあればなお歓迎)

### ・連絡先変更時はご一報を！

住所、電話、e-mail、氏名等。

### ・年会費ぜひお願いします「2千円」

(※1千円でも可)。振込先は1,4頁にも記載。

## ★特に、若手会員さまへ★

学業、仕事、家庭など多忙で、同窓会ごとき？  
でしょうが、連絡先等変更時はご連絡ください。

\*\*\*\*\*

～ その他、何でもお問い合わせください！～

事務局・工藤義夫(74回卒)

e-mail；事務局 kudou74@tokyo-aoyama.org

(個人 plutarchoshannibal@yahoo.co.jp)

Mobile；090-1704-2413

\*\*\*\*\*

## ★ホームページ・リニューアル★

～下期早々、新画面で再登場します！～

カラーでタイムリーな受発信。見てください！

(制作；渡邊修也氏・90回卒)

# H30年度～第3回・カジュアル「ますらお会」ご案内

日時・場所・費用

**平成30年11月17日(土)**  
 一次会 ; **16時～19時** (3時間)  
 場所 ; 「番屋」有楽町店  
 住所 ; 千代田区丸の内3-1-1 帝劇ビル-B2  
 TEL. ; 03-3201-3201

男性 ; 6,000円  
 女性 ; 5,000円  
 学生 ; 2,000円  
 新人 ; 1,000円 (126回卒)



二次会

<自由参加、各自清算>  
 二次会 ; 19時～  
 場所 ; 「有楽町Cafe & Dining」  
 住所 ; 千代田区丸の内3-5-1  
 東京国際フォーラムB1  
 TEL. ; 03-3211-2205

<若手幹事>

「もり-りんたろう」

- ・田中麟太郎 (122回)
- ・森 豊 (90回)

新人・学生の皆さんや  
 そして、春に来れなかった方  
 お待ちしておりますヨ!



**年会費の「振込口座」**  
 ご氏名と卒回とを必ずご記入ください！

- 1) 郵便振替口座 ; 極力こちらで振込願います  
 00150-9-4074 東京青山同窓会
- 2) 三井住友銀行; 京橋支店  
 普 8430640 青山同窓会会計幹事 川上康夫

★みなさまへ、お知らせとお願い～

- ・転居、連絡アド等変更時は、事務局にお知らせ下さい。
- ・e-mail等をお持ちの方は、登録のためご連絡ください。

【事務局 ; 工藤】 電話 090-1704-2413 または  
 E-mail : kudou74@tokyo-aoyama.org

**事務局・よろず窓口**

東京青山同窓会事務局; 工藤義夫 (74回卒)  
 〒111-0032 台東区浅草3-8-2-1101  
 e-mail ;  
 事務局 kudou74@tokyo-aoyama.org  
 個人 plutarchoshannibal@yahoo.co.jp  
 Mobile ; 090-1704-2413

～お知らせ～

- 事務局通信:
- ◆同窓会開催用住所リスト; 事務局へ
- ◆偶数月第二火曜日の会: 申込み不要・有志の飲み会。  
 H30: 10/9・12/11～H31: 2/12・4/9・6/11 毎回19時
- ◇日本海庄や・上野店  
 (上野6-14-6 山田ビル4階 / 電話 03-5807-1921)  
 場所も時間も固定です。ぶらりと立ち寄りください。
- Webサイト:  
 ◇東京: <http://www.tokyo-aoyama.org/>  
 ◇本部: <http://www.aoyama-dosokai.com/>

**2019年度総会・新人歓迎会 (?元年) 年6月21日(金) アラスカ**  
**当初予定日を変更** (日本プレスセンタービル・10F)

**?元年 第4回カジュアル「ますらお会」～ 2019年11月(場所/曜日/時間; 未定)**

# 64回卒・東京同期会報告 ～“80代”の底チカラ！！～

星満 / 坂井敬 64回

5月26日(土)に、新潟高校第64回東京同期会を、日比谷の日本倶楽部で開催、出席者は36名であった。昨年、一昨年と、坂井敬君、川崎明君の名幹事を続けて亡くしたため、新幹事として、坂井俊一、星満の新幹事で行った。

最初に、坂井敬君を始めとする昨年及び本年に亡くなった方(新潟も含め

全9名、本年既に2名)に対する黙禱。次に、新潟から駆けつけた風間士郎君の音頭で乾杯。その後、各自の近況報告で始まった。途中で五十嵐滋君の演奏により、校歌などを斉唱した。64回生は既に傘寿を超えて80歳～81歳。出席者は全員元気で、陽気に話していたが、話の内容はやはり病気や寿命のことが多かった。

## “米寿”を目指して

2年前に、東京オリンピックを全員元気に見ようと約束したが、出席者全員は元気で米寿まで生きようということになった。 星満 記

◆ 2018/5/26 日本倶楽部 ◆



# 74回卒・東京同期会(酔都志会)報告 ～“70代”健在～

(よいとしかい)

工藤 義夫 74回

卒業以来、東京で続く74期同期会(酔都志会)。少しずつ物故者もある中、とにかく毎年会いましょう会となっている。今回は、卒業以来初めてという方も出てきてくれた。外見からはわかりづらいが、顔の中心部を見るとどこかほのかな面影はあるものだ。

みな、それぞれ思い思いの話を重ねて3時間を過ごす。

今回、44歳で非業の最期を遂げた「異才・五十嵐一(ひとし)」君の27年目を記念した追悼集に、小中も一緒だった谷中君が寄稿してくれることになった。筑波大の教え子が編集する追悼集に掲載されることになる。月日は早いものだと言感する。彼も若い頃は会に気さくに出ていたのだ。古い写真のひとコマが蘇ってくるようだ。

## “人生”あと20年!?

追悼集に寄稿してくれた同期生3氏の回想文を本号の後頁に掲載することにしよう。濃淡はあるが、それぞれの高校時代などを振り返ってみよう。今回来てくれた人も、それぞれ年輪を重ねてまだ元気に生きてるのだ。そしてまた、ぜひ来年も会おうとしよう。

<酔都志会>  
番屋



H30.6.2  
<31名>  
初顔も

石黒稔 豊田邦夫 大石憲一 若林源基 高橋信郎 大滝均 丸山直人 糟谷好邦 池田裕 原 信一 齋藤一幸  
工藤義夫 河野敬一 西田/橋/百合子 渡辺/佐藤/圭子 佐藤俊栄 小林淳子 池田正行 島津/中川/満里子 太田正孝 関川修一 安田/高橋/雅子 加藤直久 中村均 伊藤宏

# “新人紹介(126回卒)”4名の言葉 ～ よろしく御願ひします ～

東京の126回生を代表して ～ 佐藤真生、伊藤壮史、庭野ほのか、長浜朱音 ～

## 「ロシア・ドイツ旅行」 126回・佐藤真生



私は現在、9月9日から23日にかけてロシアとドイツに旅行するための計画を立てている。ロシアのたまねぎ型のドームを持つ教会、ドイツの古城等々、とても楽しみだ。ロシアのビザ取得には手間がかかるということ、宿はホテルを利用すればコストを相当抑えられるということ(セントペテルブルクの宿で一泊500円以下!)、それを持っていけば世界各地の美術館で学割を受けることができるという国際学生証というものがあるということなど、様々なことが知れて刺激的だ。

東大に入ってからこの5ヶ月間は本当に色々なことを考えさせられた期間だった。自分が大学でやるべきことは何なのか。小学校から高校までずっとバスケットを続けてきてバスケットが大好きな私は大学でもバスケットに入ろうと決めていて、入学式より前に迷わず入部届けを提出した。しかし、次第に留学、インターン、ボランティア等大学では様々なことができるのであり、部活はそのうちの1つに過ぎないことがわかってきた。つまり選択の問題なのだ。部活に懸ける大学生活も本当に素敵なものだしそれを目指してバスケットに入部したのであったが、大学時代はその他のことを多く経験しその上で将来についてもう一度深く考えたいという思いが強くなって、結局バスケット部を辞めることにした。ネガティブな気持ちからではなく、「様々なことを経験したい」というポジティブな気持ちからの決断ではあったが、それでも途中でやめてしまうというのは本当に悔しい。

その決断は将来の自分がどうなるかを予想しにくくもした。1年後、もっと言えば1ヶ月後に私は何に興味を持ち、何に取り組んでいるのだろうか。その不確実性は何でもできる希望である一方で、何もなさずに終わる危険を孕んでいる。

一人旅を計画したのは、そんな不確実性の中で一歩を踏み出したい気持ちからだった。不確実性の中でもがき続け、希望を形あるものにする決意を固める。

\*\*\*\*\*

## 「今の視点から新潟高校を振り返る」 126回生・伊藤壮史



六月の平成三十年度青山同窓会におきましては、新人歓迎会を開いていただきまして、誠にありがとうございました。新潟高校126回卒業生として、この青山同窓会の一員となれ

たことを改めて実感し、誇りに思っています。

私は中央大学の理工学部にて在籍しています。勉強を進めていく中で、大切だと感じるがあります。それは、疑問が生まれたときは納得のいくまで突き詰めることです。そうすることで、より正確な物事の捉え方、考え方ができます。授業の中で生徒同士が問題について議論する時間があるのですが、その時には正確な答えが出るまで仲間とともに話し合っ問題解決しています。これは、新潟高校が教育目標としている真理追究に通じると思います。

今後は、自分の専門分野について学び、研究室に配属され、自分の興味のあるテーマを研究します。私の専門は機械工学なので、研究ではいかに人の役に立つ機械を作れるかということが一つの大きな課題です。そのために、日ごろから社会ではどのような問題があるのか、それに対して自分が(自分の専門分野で)どう貢献できるのかを考える必要があります。これは母校が掲げる社会貢献の精神と同じことだと思ひます。

新潟高校での学びは大学受験のみならず、先を見据えたものであると、わずかな卒業後の生活でも実感しています。また、必死に声を張り上げた応援歌練習や、仲間とともに汗を流した青陵祭は苦しい時でも自分を勇気づけてくれるような大切な思い出です。世代は違えど同じ学び舎で学んだ者として、皆さんと卒業後もつながりを持つことができ、大変うれしく思っています。今後とも、よろしくお願ひします。

\*\*\*\*\*

## 「夏といえば、放送」 126回・庭野ほのか



放送活動に青春を捧げてはや四年目となりました。元新潟高校放送部、現千葉大学放送研究会の庭野ほのかと申します。この度は高校放送での思い出、大学での活動をお話します。

皆様覚えていらっしゃるでしょうか、『バレンタイン・デイ』。昨年のNHK全国高校放送コンテストで優勝をいただいた、我々の作品です。この作品の監督と私は、高校一年生の時に共に全国大会を見学しました。圧巻でした。彼と私は、番組制作とアナウンスで分野こそ違いましたが、同じ熱量で、「自分たちの力でNHKホールに立とう」と約束しました。今思えば青春ですね。私は最後の大会で準決勝止まりでしたが、ドラマ部門で優勝した感動は忘れられません。

そして一年がたち、後輩たちを東京で迎える番です。今年はアナウンス一名、テレビドラマ一本が全国大会に出場し、後者が制作奨励賞を勝ち取りました。嬉しいと共に悔しいのだろうと感じました。

そして一年がたち、後輩たちを東京で迎える番です。今年はアナウンス一名、テレビドラマ一本が全国大会に出場し、後者が制作奨励賞を勝ち取りました。嬉しいと共に悔しいのだろうと感じました。

放送は評価基準が曖昧です。程度の差はありますが、審査員のお好みが増味されてしまいます。だからこそ高校野球のように大勢の方から注目されることは少ないように感じます。しかし私自身は、放送活動を通して多くの方に支えていただいていると実感しています。恐らくですが、放送は一人でも成り立たないからだと思います。一緒に活動する仲間は勿論、取材相手、アナウンス・朗読の聴き手、番組の視聴者との繋がりが大切と感じています。

熱くなってしまうかもしれませんが、ここで少し大学での放送活動に触れようと思ひます。私は純粋にアナウンスを極めたくて放送研究会に入ったのですが、予想外に番組を一本作ったり、ドラマの脚本を書いたりもしました。何かを生み出す苦勞を知ることができた、とプラスに捉えたいと思ひます。ただ、本業はアナウンスです。秋には、計五つの司会をさせていただきます。日に日に放送活動の深みにはまっている、今日この頃です。あ！私、庭野に司会や場内アナウンスの依頼がございましたら、ぜひご連絡くださいませ。

\*\*\*\*\*

## 「憧れのキャンパスライフ」 126回・長浜朱音



大きな期待と不安を胸に上京し、夢だった大学に入学してから約5ヶ月が経ちました。振り返ってみると、新しいことが目白押しで充実していて、短く長く感じられる期間でした。勉強面では好きな分野をより深めて学ぶことができ、新たな発見や驚きがたくさんあって興味深いです。また、初めてアルバイトをして社会に出て働くという経験し、大変なこともありますが、やりがいを感じながら楽しくお仕事をしています。

家族の元を離れて一人暮らしを始めたばかりの頃は、不安と寂しさでいっぱいでしたが、今では少しだけ慣れてきて、行きたかった大学に通って充実した日々を過ごせていることを幸せに感じています。そんな今の私がいるのは新潟高校のおかげです。

高校1年生のときは音大に進むことを志願していましたが、新潟高校のアメリカ研修に参加したことで海外の文化や言語に興味を持ち、お茶の水女子大学の言語文化学科で学びたいと思うようになりました。また、新潟高校には高い志を持ち、夢のために新潟を離れてそれぞれの場所で頑張っている仲間がたくさんいます。だから私も頑張ろうと思ひます。

6月には私たち126回卒業生のために、東京青山同窓会を開催していただき、懐かしい友達に会って、故郷に帰ったような気持ちになりました。これからも丈夫魂を忘れず、楽しみながらいろいろなことに挑戦して、実りある大学生活を送りたいです。

## 東京新人歓迎会 2018(H30).6.15



フレッシュ新人12名たちの「ますらお」

# ～異才「五十嵐一」“非業の死”から27年後の「回想」～

「未知への知の連鎖 ～イスラムの正しい良き理解者」

追悼集に寄稿した青山74期4氏の言葉

(編集:工藤) 1/3

## ◆まえがき◆

筑波大での教え子、伊藤庄一氏より。  
(現、エネルギー経済研究所) H30.年5月

1991年7月に発生した世にいう「悪魔の詩事件」で非業の死を遂げた、故・五十嵐一(いがらし ひとし)、当時、筑波大学助教授。

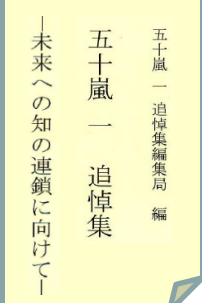
あの日以来、今年で27年目。この間、五十嵐雅子夫人が中心となり、「回想五十嵐一の会」を毎年7月に都内で開催。もう四半世紀以上が過ぎ、五十嵐一氏の旧知の方々も鬼籍に入られた方が増えました。そのような中、昨夏の「回想五十嵐一の会」の際、教え子や同先生の御友人の方々がいニシャチブをとる形で、2018年7月の同会の開催に合わせ、筑波大で薫陶を受けた一人の伊藤庄一氏等が遅ればせながら、「五十嵐一追悼集」を編集。

古今東西の文明を超越した観点から遺した五十嵐氏の数々の業績は、学問的な希少価値に加え、現代社会に対する啓蒙という意味でも機知に富んでおり、未だ輝き続けています。

同追悼集では、五十嵐氏が後世に残した数々の言葉を収録することに加え、生前の同氏を知る各方面の方々(新潟時代、大学・大学院時代、筑波時代等々)、ならびに五十嵐氏の辿った足跡や業績に今日的意義を見出される方々(同氏に直接面識のなかった人々を含む)から生の言葉を頂きたいと考えております。生の証言を活字化して残すことにより、後世の歴史家や思想家が同氏の再評価を試みる際に、五十嵐氏の足跡を辿る上で一助となることを目指しています。

今回、追悼集から、青山74回卒同期生の寄稿を抜粋した。(編・工藤義夫/74回)。全文PDF版(工藤保管。ご連絡を)

\*\*\*\*\*



\*\*\*\*\*  
五十嵐一 追悼集編集局 編  
五十嵐一 追悼集  
未来への知の連鎖に向けて  
『五十嵐一 追悼集』  
2018.7.9 発行版  
\*\*\*\*\*



<五十嵐一氏>  
1981年=S56  
34歳頃  
“酔都志会”  
よいとしかい  
(青山74期の  
東京同期会)  
\*\*\*\*\*

## ◆五十嵐一とは◆

中東・イスラーム学者。附属小・中、新潟高校、東大数学科、同大学院美学芸術学博士課程卒、イラン王立哲学アカデミー研究院、筑波大助教授。1990年サルマン・ラシュディの小説『悪魔の詩』を邦訳、1991年筑波大校内で斬殺。イラン関係者の犯行と推測も公訴時効。「イスラームは元来、もっともっと大きく健康的な宗教ではないか」と述べる。

高校時代、旺文社の全国模試では全国のトップになったこともある。東京などの同期会にもマメに出席 気さくに話していた。

酔都志会(74期東京同期会); 1981(S56) .3



## ◆五十嵐一君を想う◆ 谷中健治/74回

私達の小学校は一学年100名弱、自分の組か“隣の組”で中学校卒業まで一緒でした。五十嵐君の“他の誰とも違う”ところは 六歳の児童でも感じるに時を要さなかったと思います。いろんな事を知っている 何でも出来てしまう等能力の話文ではなく、存在感が違っていました。60余年前に子供の目や心に写った姿をそのまま思い出すのは難しいですが、感じ続けた畏敬の念の土台は 自然体で強圧的な処は皆無ながら 圧倒的な神秘の存在を感じさせられた事にあると思います。大人びて居たとの言い方は余りに軽く不適切ですが、何事にも他人とは違った次元での対処を予期させる落ち着きと 精神の深さを持った佇まいが 真にGiftedな人物である事を示していました。

彼には 天才神話的逸話は必要ありません、一緒に中庭の動物や植物に世話を焼き、浜まで歩いて水泳の授業に出かけ、学芸会で劇を演じ、共に歩みながらSuper-naturalなものの存在と力を 日々自然に示してくれて居ました。小学校の3年生か4年生の頃でした、学芸会で彼が唱った歌声と歌詞の響きが耳に蘇る気がします。オペラのアリアや難しい歌曲、或いは小学唱歌等ではなく、美空ひばりの「港町十三番地」「♪長い旅路の航海終えて 船が港に～」でした。性別、年齢や諸々のものを超越した彼でしか唱えなかった歌声でした。のど自慢で少年歌手が大人っぽく上手に歌うのとは次元が全く異質で、世相や時代を自分の中に包含した歌であったと言う表現でお許し下さい。木造の古い講堂に響いた歌は、只々驚嘆の思いを越え、父兄、先生方を含め心に届く何かを感じさせたのではなかったでしょうか。

高校はそれまでの五倍の規模で日々の触れ合いは遠くなったのですが、2年生の時五十嵐君から声を掛けてもらい 数人でシェイクスピアを読む機会を得ました。人間とは何かの大きな命題を追う五十嵐君の精神の奥深い一端に 彼の講義を通じて些かなりとも触れる事が出来 啓発された大切な思い出です。ハムレット冒頭の深夜の城壁で“What, is Horatio there?”の問いかけに対し“A piece of him”と本人が応えます。主題テーマ、時代背景、世相等が一つ一つの台詞に凝縮して盛り込まれ、観客に考えさせ分らせるのが戯曲で、舞台劇の醍醐味はその読み解きに在るのですが、五十嵐君はその楽しみに接する機会を与えてくれたのです。さすがにシェイクスピアは難解でしたが、その後大学で専攻外ながらキース、ワーズワース等に親しみ、亦社会人となり海外での生活の一つの軸に過ごせたのも、言葉と生活、言語と文化との緊密な関係の理解が如何に重要かという事に触れられたからで、五十嵐君に感謝の念で一杯です。彼の人間への貢献を 限定した年月に留め その後の実りの途が閉ざされてしまった事は 百万言を費やしても悔やみ切れません。H30.6寄稿。

## ◆市井の聖、即俗に有り◆ 石川克彦/74回

「五十嵐一氏が高校生活で私に残した想い出、殉職後四分の一世紀を経て生きる遺訓」

### <新潟高校の二年間>

女子比率10%、1学年各組50人の10クラスの団塊世代が通う、旧制中学時の名物教師も残る新潟高校に入学した昭和38年4月。そこで僕は五十嵐一氏を知る。1年時は別クラスだったが、お坊ちゃま連が行く新潟大学附属小・中学から来た天才が同学年に居るといふ噂は即、耳に入った。父を5歳で亡くし継父と母の共稼ぎ家庭で育ち、中3秋の県大会決勝で初黒星を喫した以外、卓球では常勝を報告し続け両親を嬉しがらせていた私には、天才と噂される人に出くわしたのは人生で初めてだったが、文武両道を善とする自分には彼は特別興味を持つ存在でもなかった。

2年になり彼と同級になったクラスは、奈良先生(東京理科大学物理、学年主任)が担任。学年で唯一、女子無しの男子クラス。一氏の学業での持続的断トツぶりはその頃までには附属以外でも誰もが仰天するところであった。

校内一番だけでなく、能研(全国能力検定試験)や旺文社の大学入試模試で全国一位。成績抜群以外に惹きつけられたのは隣の席になってからで、次第に付いていけなくなった物理や数Ⅱで色々茶々を入れ、これは難しく分からなくてもあれは絶対覚えるべきとか、此処は教科書の前々の頁へ戻って読み返せば良いとかお節介を焼いてくる。学年後半、すっかり付いて行けなくなっても分からせようと囁くので余りのきまり悪さ。「俺は文系行かからもう構うなよ」とまで言った事もあった。

数学ではこうしてドロップアウト。他科目で起死回生とばかり、現代文で岩野先生に亀井勝一郎の評論を読む授業でこの単元を私に授業させて下さいと頼み許可された。批評文の読み方、文節構成、指示詞が何を指すか等、岩野先生の講義を真似て教壇から、生徒に指示し、前夜まで用意した質問を生徒にかけ、正解を得るまで次々指名、一氏にも当てた。この俄か教師にクラス全体が応じた。初日はどよめきの中を厚顔無恥、先生が次回もやってもらおうと話すとか皆ヤレ!!との野次。一氏は良かったねと言ってくれた。男子クラス風情。

授業音楽の鑑賞でも、変調の機微を捉えろとか、指揮者によるオーケストラ演奏の斯くなる迄の相違に気付かされたのも一氏のせいである。僕が卓球で県内では常勝無敵の部員を率いたり、青陵という我が新潟高校が旧制中学以来応援歌でも使用して来た愛称名を、新設の近隣女子高校が使用するのに反対しようと校長に直談判にいく等、ある程度の級友達の信頼を勝ち得ていたからであろうか、一氏自身も天才と呼ばれる事を毛嫌いし、十六歳としての自分の素顔を私にも訴えたがったのだと思う。授業体育では実技の逆立ちを拒んだ一氏だが、「自分は50mの短距離走では負けた事が無い」と俊足の才もある事を主張した。

女子生徒の中にも公認の五十嵐ファンが生まれていたが、連れションから出て脇の女子トイレの通りすがりに「モミの木、もみの金たま!」と聞えよがしに叫んだりもするひょうきんさも心得ていた一氏だった。今日の在京女子学生ならセクハラ呼ばわりするかも知れぬ。遠足に出たバス車中で、氏の古典落語の一つ二つを聴かされたこともある。どうやって、五分超の記憶力を保てるのか?後日、我が息子の百数十本のポケモン名連呼や弦弧連打のバイオリン演奏に驚かされつつ、一氏が白紙の脳裏に臓器鼓動と共に銘刻・吐露しては忘却する中間記憶回路を別に持っていたのだろうかと回顧した。  
～次頁に続く～

# ～異才「五十嵐」<sup>ひとし</sup>「非業の死」から27年後の「回想」～

「未知への知の連鎖 ～イスラムの正しい良き理解者」

追悼集に寄稿した青山74期4氏の言葉

(編集:工藤) 2/3

## <小原雅之氏との共鳴関係>

このクラスには我が親友で後日、第四銀行頭取を務めた小原雅之君が居た。彼氏もひょうきんさが男子社会を生き抜く道であることを心得ていた少年剣道士であった。僕のビートルズ開眼は彼からだ。綺麗な字で世界史のサブノートを作っていたのを借り書き写したのがキッカケで親しくなる。彼もすぐ一ファンになるが、国家公務員の一職種という両人の同じ出自から一氏には無意識に「彼に有って自分に無いものは？」を探る“天才偶像破壊者”役を背負うことになったように思える。小原氏の部屋でビートルズの楽曲に合わせて踊るTWISTを学んだ。最初ベタ足で腰腕を左右に振るしかなが、の字の字に曲げた片脚を空に軽く浮かせるだけで洒落た動きになる。このコツを覚えクラス全員腰を振り、来日中のビートルズ旋風に便乗とばかり小原氏と盛り上がり、高校近くの会館を借りたコンパで、プレーヤーとLP盤を持ち込み、羞恥心を消すため照明を暗くし畳の上の男子対面TWIST大会を行った。一氏が後日、筑波大でバックコースを待たせメイクを掴む姿をビデオで見て、昔日のツイスト・コンパが脳裏に蘇った。ある土曜午後、小原氏発案で、旭町高台の一氏自宅を探し押しかけた。彼は一体どんな日常を送っているのかと、そして彼の愛聴番組NHK“なもんや三度笠”(藤田まこと・藤純子・白木のる等)を見終わり、近くの通りで近所の子供相手にサッカーをしているとのこと、お母様と行き、帰途ジュースをご馳走になった。突然来た吾々にお母様は小柄な体軀を丸め「一は教室では生意気でしょ？」と何度も尋ね、学校での子息の受容度を心配されていたようだ。

## <英語研究会の立ち上げ>

高三夏には英語研究会を立ち上げ、自分で青焼き謄写し配布する英文小説やリヤ王の2～3頁分を、土曜午後遅くまで読解・解説して貰った記憶がある。文中back-seat driverなる言い回しに、僕が私塾で習った蘊蓄を披瀝し一先がそうかと唸った事もあった。後年「摩擦に立つ文明」を上梓する一氏だが、英語研究会の講義ではA.Toynbeeの俯瞰世界史やBertrand Russel 卿の批判哲学への言及が氏の真骨頂で、私も東京の大学に進むと、読んだ解とは別格の異次元世界を予感したものだ。英文読解に励みつつも、しかし外国文著者の考えを心底分かち合えるのは無理だと念を押していた。解る解って貰えるなんて皆がない。西洋人が100%解ったとかいうのは嘘だとさえ。民族が味わう経験は体験したものでない限り解りっこないのだから、字面で読んで感じる了解と共に、違和感も感じなければおかしいし、それを大事に温めよと言われた気がする。一方、西洋文学の問うてる事は姦淫の非意識。吾々が理詰めで考え抜いて埒があくものでない。今後、様々なラン文字に晒されて行く中で、西洋諸言語は全部、英語をしっかりと勉強すれば、日本語にも方言ありと思えば良い。ズーズー弁や関西弁だのを、フランス語やイタリア語と言ったりするだけなのだからと。

## <大学三年夏帰省した古町での出会い>

東京外語大英米科に進んだ私を待ち受けたのは劣等感に苛まれる日々だった。会話や演劇の授業には級友の大半がスラスラ自分の思考言語として曲がりなりにも英語表現でき、半数近くと思しき長期海外生活経験者に至ってはネイティブの論客にもたじろがずまくしたるのを見て萎縮し続け落第した。2年目もして変わらぬコンプレックスまみれの教室通い。英語劇では小道具に回ったり必死にサバイバル術を模索する中、一氏はその年も外語祭の英語劇鑑賞会に来ていた。高校では彼主催の英語クラブで薫陶を受けた身でありながら劣等生で舞台でも演じない私に一氏は、上演されたシエク

に何か訊いてきたのだが僕は益々萎縮しもうこんな世界に身の置き所はないとまで悩んだ。その夏帰省し古町の萬松堂書店で一氏と会い近くの喫茶白十字で小1時間話す。学業の苦しさから一時の慰みを後輩の女学生と懇ろになることに見出し、彼に訴えた際覚えてるのは、「数字のゼロ乗＝1」を持ち出し天才一氏の前に当時の自分を精一杯背伸びして見せたが、彼の返事はそれは単なる数字の決め事であり大層なものではない事。そこに哲学的・倫理的な意味を探ろうとするのは邪道で神秘主義に陥る危険ありとの事。学園紛争に触れ、吾々地方出身の田舎者には到底、中学時代からデモに遭遇し育った東京人学生とは一緒の行動に駆り立てられずとも仕方ない。一氏はその夏友人と東北の旅に出ると言っていた。

## <米留学/新潟日報に私のイラン体験>

英語劣等生の身上持ちのまま、学園紛争への揺り戻して押し出され5年で卒業。教員に出ると言語の達人・東大卒と見られた。世間免許を取得していたこと、第二外国語は仏語で良が4単位、5年目でフランス科学生の中で修めた可で20単位ほどが効があったか、雑誌や年鑑の翻訳をやらせて貰ったりしていて、英米科の3年先輩でAFS米国高校留学経験者で当時花形同時通訳者の種田輝豊氏主宰のThe English Journal でアシスタントの仕事を得た。自分の才能を切り売りし実社会で生き抜いたその後の5年間で、種田氏の耳から入る語学習得法を身に付け、TOEFLで当時の最高点612点でフルブライト奨学生となり初めての渡米を果たしアイオワ大学で政治学修士号を取得後、論文プロポーザルで“新興国モザンビークの対日伊勢エビ輸出に見る旧社会主義国の政治発展”を提出、審査面にて臨むもテーマ不適切となりそこで奨学生としての命運は尽きた。アイオワに居た頃、1977年初頭に読売新聞がニューヨークで印刷発刊されることになり夏アイオワを離れる迄の半年間購読した。今日のネットで何処の情報も手に入る時代に突入直前の端境期だった。Ezra Vogel氏が「Japan as No.1」を著した時代、外目で国をどう見るべきか、今後のキャリアの羅針盤を得るため購読を続けた。五十嵐氏が「私のイラン体験」という連載コラムを地元紙の新潟日報に投稿開始し、弟が紙面の切り抜きを送ってくれた。修士号取得の必須科目としてのモザンビークについての小論文を首都マプトのマシェル大統領に送り、滞在ビザ発給をお願いしたのも重なる1978年末～1979年春。建国200年の米国をこの目で見てやろうと1976年7月に来た米国だったが、政治発展論の著作を読み進むうちに、アフリカ・中東諸国一國の近代化に収斂させて政治発展の本質とはと云えるケーススタディを、旧宗主国ポルトガルから独立してやカストロ政権による養殖技術ODAを受け、モノカルチャー産品として日本に輸出し唯一の外貨獲得源としている事実を、博士論文に仕上げる形で次の目標が見え始めている。シアトルに移って後、1979年あたりからはW大キャンパスで遭遇したパーレビ打倒の火災瓶、イラン王国旗炎上騒擾や、教室でアジア・アフリカ新興国学生の英語プレゼン能力に圧倒され、試験でもどうにかK点超えを重ねた挙句、萎縮せずに考えを廻らせ得る方法として一旦帰日し、変革目まぐるしいイスラム国家に身を置くことで直出直入の気になった。一氏のシリーズ「イラン体験」談は、昭和43年夏に古町で話した以降は、一氏が大学院で美学専攻し、毎夏郷里新潟で、同窓の藤田一巳君が始めた進学塾信濃学園で講師をしてると聞くだけで、高校時代にA.Toynbeeの英文抄を読んで得意の手話さながらのジェスチャーを交えて語る「世界

を俯瞰する・歴史を生きる」とはこういう事かと驚愕驚嘆。一時帰国後、短期間パンアラブ通信社勤務後、ナイロビで投獄中の作家ングギ慰問のAA作家会議主催学習グループに加わり、ケニア・ウガンダ・タンザニア歴訪後、陸路でモザンビーク入国の試みも失敗。ホメイニ革命の自国拡散を恐れ1980年9月12日軍事クーデターに出たトルコ共和国に10月1日初入国後7年間、アンカラ大学政治・行政学部で大学院に通う。一氏の日報紙の連載記事に出くわさなければモザンビークに行き、次いでトルコへ行って博論を書くことにはならなかったと思う。

## <アンカラ訪問時、一氏の加嶋屋土産>

日航ジャンボ機墜落事故の1985年8月に、キプロスからシリア・ヨルダン・レバノンを廻りアンカラに戻った時、一氏はイラン再訪の道すがらトルコに来たと書状で記し、三井物産アンカラ支店長赤松氏に自身の演説稿と私への土産を託し既にトルコを離れていた。一氏は高校時代の級友がアンカラで院生生活を送っているのに驚いた様子で郷里加嶋屋の佃煮珍味を笑納とのメモ書きに、心に掛けてくれた事の他に、学問も人知の義を尽くす一氏の知識人としての成熟ぶりに仰天した。

興味の赴くまま語学なり政治学なり好きな生き方をとことん追い壁に当たってはどう隘路を打開するかと知覚を研ぎ澄ます都度、彼との高校時代の出会いを想い起こして来た。それは生まれたときのまっさらの自分に立ち返り、残り半生をどう生きるかの自問でもあった。一氏のような才能に恵まれた訳でもなく立礼奮起もなかった私だが、キャリアに迷う時や窮地に立つ時、彼との交際で当時は気付かなかった“あの時の彼の姿は僕にこれを伝えようとしていたのだと言っシーンが浮かび上がる。自由主義者として70の齢を迎えた今も、思うがまま探究心を満たそうとする私はである。行き詰まっては一氏が路を示してくれた。彼との更に深い因縁を結んだこの“五十嵐一氏を偲ぶ会”で各諸氏のエピソードを今も耳にし、まだまだ彼との間で見落していた珠玉の遺訓に気付かされる事を願い毎年七月の会に足を運ぶ。～H30.7追悼集抜粋

## ◆五十嵐一のこと◆ 池 一/74回

五十嵐一君とは、そんなにつきあいが無い。しかし、言になる「存在」だった。私の母も(今思えば)言うところの「教育ママ」で(それに新潟は小さな町である)、いろいろな人の情報は詳しく、彼の「うわさ」はいつも聞いていた。それはともかく、東京大学を出て筑波大学の教員になっていることだけは知っていた。あると、仕事で出かける途中、中央線の御茶ノ水駅スタンドの「タ刊フジ」か「日刊ゲンダイ」の見出しに「筑波大学助教授殺さる」とかなんとか朱書きで出ていた。まさかと思ったが、「胸騒ぎ」がして買ってみると彼のことだった。ショックだった。職場に警察から電話がかかってきて、情報の提供などを要請されたりしたが、私には何もなかった。彼と直接話したのは、同期で毎日新聞運動部記者だった大野晃氏の結婚式の二次会で、新宿西口公園付近のバーでのことだけである。その時、名刺をもらった。たしかイラン王室アカデミーの名で、筑波大学教員ではなかった。それだけ、ペルシャに対する思いは深かったのだろう。しかし(その後テレビで見た)ドラムをたたいている姿は想像外だった。私も高校時代は勉強そっちのけでジャズクラブにはまっていたが、もうすぐ君の傍らに行ったら一緒にセッションをやりましょうか。 ～ H30.7 追悼集から転載 ～



# ～異才「五十嵐一」“非業の死”から27年後の「回想」～

「未知への知の連鎖 ～イスラムの正しい良き理解者」

追悼集に寄稿した青山74期4氏の言葉

(編集:工藤) 3/3

## ◆五十嵐一君を偲んで◆

鹿島正裕 / 74回 (金沢大学名誉教授)

私は、新潟高校と東京大学で彼と同学年でした。新潟高校では一年時のみ同クラスで二、三年時は別でした。彼は理Ⅰから理学部でしたから授業で会うことはありませんでしたが、教養課程は駒場で一緒に過ごしたので新たにキャンパスで出会うことができましたし、一年時に新潟高校出身の先輩が開いてくれた同窓生の懇親会でも会った記憶があります。同校から東大へは一学年一人かそこらしかいなかったもので(最近は二人ほどの年もあるようですが)、しかもその年(1966年)は現役入学者はわずか四人、その全員が来たのかも覚えています。彼とそのような宴席で会ったのはその時だけです。

このように、五十嵐君とは一時は同級生だったし、のちに思いがけず中東研究者としていくらか似たような仕事をすることになった私ですが、残念ながら親しくはありませんでした。なぜなら彼は必ず抜けた秀才で、同級生も教師も一目置き、彼自身それを当然とする態度でしたから、私は話も合わない敬遠していたのです。私も東大文Ⅰ(法学部進学コース)に現役合格したのでそこから秀才とされるわけですが、彼は別次元の人物でした。私は両親共高卒で、港町新潟の下町で地元の中学校に行き、中卒で就職する同級生がかなりいる環境ながら、親から大学を目指すよう言われて受験勉強し、新潟高校に入ったのですが、教科書と参考書以外あまり本を読んでいませんでした。ところが五十嵐君は、新潟市の教育熱心な親たちから子供を行かせる新潟大付属小・中学校を受けてきており、同中学校から新潟高校には一緒に多数入って来ているのですが、彼らは医者の子供が多かったりで皆かにも優秀そう、裕福そうでした。一年時の同級生に付属出身者は彼以外に何人かいたのですが、彼らも「五十嵐君は特別だ」という態度でした。彼のファンのように、よく話を聞いている(付属出身者でない)男子が一人いましたが、友人と言えそうでもありませんでした。何しろ彼は入学後すぐに、英語教師をつかまえてシェイクスピアがどうのこの、数学の教師をつかまえてガロワがどうのこの、といった講論を吹っかけて困らせているような人だったので。高校への受験勉強どころか、大学生の学ぶようなことを中学校で独学していた人を知って、彼は衝撃を受けました。それで私も教養書を読むよう心掛けるようになり、当時は夢にも考えませんでした。結局学者になったのは彼のおかげかも知れません。

当時新潟高校では、毎学期の中間・期末試験や実力テスト(英数国)の成績優秀者の順位と点数を掲示板に張り出していました。五十嵐君はそのほぼすべて一番を通過しました(約520人中)。三年時は文系・理系に分かれ、彼は理系で、一度だけ、二年時の実力テストが二番になり、その学期末のクラス担任と父兄の面接時に母親が「恥ずかしいですわ」と嘆いたという話を聞いたものです。三年時には、当時旺文社の全国模試というものが年間三回あり、それで志望大学・学部合格を知るために新潟高校生と一緒に受けていました。試験は文系と理系に分かれていたのですが、五十嵐君は一回目・二回目とも理系で全国一位でした。これも成績優秀者名簿が発表されたら分かったのですが、三回目には灘高生等が初めて集団参加したらしく、彼は最上位ではありませんでした。彼より優秀な(少なくとも受験勉強では)人たちは理Ⅲ(医学部進学コース)に行ったので、彼は東大での一年時の教養科目平均点が理Ⅰで一番だったそうです(私は教養学科進学後、そこでの友人から「俺は理Ⅰで七番だったんだが、一番の五十嵐ってやつはどんな男?」と聞かれたので知りました)。試験での好成绩を目指してがりが勉める人が多い中で、彼がすごいのは、試験勉強以外にたくさん本を読んだり音楽を聴いたりしていたことです。先述の新潟高校同窓会では、「第二外国語にロシア語を選んだのは、ドストエフスキーを原語で読みたかったから」と、間もなく理学部で数学を専攻する人からかぬことを言っていましたし、大学院では美学芸術学を専攻したのですが、それを知って驚いた私に、「前からそのつもりだったのだけれど、まず数学の美しさを見極めたかったんだ」と言っていました。その後、イスラム思想史を研究しにイランに留学したのを知り、またまた「何で欧米じゃないの?」と驚かされましたが、今の私は「流石に目の付け所がよかつたな」と思います。

当時の彼はベトナム反戦運動や「七〇年安保闘争」に影響され、「東大闘争」に「駒場共闘」の一員として関わって、社会主義に強い関心を抱いていました。それで立身出世主義者の多い法学部に行かず、教養学科で国際関係論を

専攻、ロシア・ソ連研究を副専攻していたのですが、1968年にチェコスロバキアが「人間の顔をした社会主義」を目指したのをソ連軍が軍事介入して押しつぶしたために、ソ連に絶望しチェコに代わって社会主義体制の改革を試みていたハンガリーを研究すべく大学院に行き1974～1975年に一年半同国に留学しました。しかしそこで現実の社会主義の原理的矛盾に気づき、ハンガリー研究を一書にまとめたあと社会主義研究から離れることになりました。その後、周知のごとく1989～1991年にソ連・東欧の社会主義体制が雪崩を打って崩壊し、社会主義研究者たちは途方に暮れることになったのです。深く研究者をやめた人もいましたが、多くは比較体制論等に流れていきました。私は1980～82年に国際交流基金派遣専門家としてカイロ大学で日本語・日本事情を教えたのを契機として、中東研究に転向してまいりました。それで必然的にイスラム思想についても研究することになったのですが、五十嵐君ほどの能力のない私にはアラビア語もなかなか身に付かず、アメリカでその対中東政策を研究したり、英語と仏語で何とか研究できるマグレブ諸国、特にアラブ諸国中唯一民主化した成功したチュニジアを調べたりしています。最近では亡命イラン人ザッファリアが英語で書いた『イスラム主義ー新たな全体主義』(風行社、2018年)を翻訳刊行し、五十嵐君と同じような分野を研究することになったものだと感慨を覚えました(同書には彼の悲劇についても書かれています)。

自分のことを長く書いてしまいましたが、五十嵐君は私のハンガリー帰国と入れ替わるようにイランに留学し、そこでイスラム革命に遭遇して帰国、その体験談を出版して論壇デビューしました。大学院での研究をまとめた『知の連鎖』という学術書もすぐ刊行したのですが、『中東共育のすゝめ』や『音楽の風土』といった一般向け啓蒙書も続々出版し、イスラム思想史を遙かに超えて幅広い知識を披瀝します。しかし有名大学で専任教員ポストを得るにこうした評論はかえってマイナスだったようで中々就職できず、奥さんと塾を経営する時期が続きました。私もハンガリー研究をまとめたあと前述のようにエジプトに行き、1982年に帰国後金沢大学で教えるようになったのですがもう三四歳になっていました。中学校時代くらいから友達・先生・親戚らに年賀状を出す習慣を身に付けていたので、五十嵐君とも東大での懇親会以来年賀状の交換をしていましたから、就職を知らせると彼から新着を送ってもらえるようになりました。彼が1986年ようやく筑波大に職を得るともう送ってくれなくなりまして、続々専門書や評論書を出版するのみならずオペラも上演する等、多彩な活動を展開していることは年賀状で知らせていました。私は1988～1989年にフランス政府給費生として「アブムスリム世界研究所」で八ヶ月研修したのですが、ちょうどその頃ランジュイが『悪魔の詩』でブッカー賞を取り、イランのホメイニが彼や各国の翻訳出版関係者に死刑宣告をしたので欧米では騒ぎとなりました。私のいたフランスでも、テロを警戒して訳者を匿名にし、出版社も10社ほどで連携する形をとっていました。帰国すると、なんと五十嵐君が日本語訳を刊行し記者会見までしてその際パキスタン人に襲われたそうになったと報じられたのでびっくり仰天しました。危険だとあつたので、案の定悲劇が起きてしまったのです。

彼の訳書を読みましたが、軽妙で饒舌な文章で彼の訳文だからというだけでなく、内容も彼が書いてもおかしくなかったように感じました。『イスラム・ラディカリズム』も私はなぜ『悪魔の詩』を訳したか』という彼の著書を読んではいませんが、世界的な話題の書ながら他の日本人が訳出しにくい中、日本でのイスラム理解を高めるために我こそは危険を冒すのだという男気を見せたのだと思います。自分は古今東西の学問・芸術・音楽等何にでも(スポーツ以外も?)通じており、適切な評価ができるのだという自信をもって著作活動を行っている、この職業もその一環という意識だったので。た彼は、小学校時代からずっと経済的・知的に恵まれた仲間たちと過ごしてきた、あるいは人達の怒りの怖さを実感してなかったのではないのでしょうか。私は中学時代にいよいよ「不良少年」に殴られたりした経験があるので、彼はそういう怖さを甘く見たのではないかと感じています。彼は井筒俊彦氏の「愛弟子」だったそうですが、井筒氏が古今東西の哲学や宗教に通じていたとはいえ、五十嵐君はそれ以外の分野でも広い知識を持っていたので、長生きすれば著名な学者・評論家になっていたでしょうに、早死して本当に残念です。日本にとって損失だっただけでなく、イスラム世界もそのよき理解者・紹介者を失ったことでした。

## ～ H30.7 追悼集から、転載 ～

## ～「H30.7 追悼集」からの抜粋～

◆五十嵐一先生との出会い◆ 伊藤庄一氏 筑波大卒/日本エネルギー経済研究所研究主幹 ～「ラディカルな」五十嵐先生～

1988年筑波大国際関係学類に入学、先生の最初の英語授業での衝撃は鮮明に記憶する。「カンタベリー物語」原典(中世英語)の書き出しを現代英語に翻訳し感想を書くという。また板書には英語以外にペルシャ語やアラビア語の文字も。先生は「英語とフランス・ドイツ語なんて標準語と茨城弁と栃木弁くらいの違いで、面倒だからまとめて一緒に覚えなさい」と。後日、何ヶ国語をマスターされたか聞くと辞書を使い読めるのも含め35ヶ国語と。先生は学生の反応は織り込み済みで、知的世界の広がりとは、大学という学問の空間の意義とはと、学生の問題意識を育むため敢えて最初「カルチャーショック」を与えた。英語の授業の筈が、古今東西の観劇が舞空間に吸い込まれ、私は「ザ・イガラシールド」の虜になった。

先生の授業は余人の追隨を許さない学際性のみならず、多種多様な言語が縦横無尽に溢れた。内容も日常の出来事や時代の国内外情勢に結び付け、実に分かり易い説明だ。先生は、学問自体にも凄く謙虚で、普段の毒舌家からは想像し難いが教えるにも非常に謙虚だった。授業は先生特有の駄洒落、まさにプロ級の声帯模写等ユーモア溢れ笑いが絶えないが、学問と学生の本文とは何かというメッセージがひしひしと伝わって来た。先生が亡くなった1991年開講の「文化哲学」の概要に「学問に身を殉ずる覚悟のある者のみ受講可」とあり、学問の素晴らしさを実感させたいと、それこそが大学で教鞭を執る者の使命との覚悟が込められていた。

また先生の著作に好んで使われた言葉に「生涯一学徒」があり、純粋に言葉通り生き抜き、頑ななまでにその言葉に忠実に最期を遂げられた。「悪魔の詩」の翻訳書出版数日前のこと。私が学者になりたいと伝えた際、ポツリと言われたのは「怖いよ」だった。「学者として覚悟を決め真理を探究するならば、結果がどうなるかまで心配するあまり真理追究という学者の本文が揺らいではならない」との深淵なメッセージと理解する。

「文化哲学」の講義中、「神秘主義のエクリチュール(1989.9刊行)」序論で、もし自分の身に何か起きた時に備えて、自叙伝的なことを書いておきたいといつも明るい調子で語るのを聞いた記憶が残る。まさか、間もなくあの事件とは。さら「中東ハンパが日本を滅ぼす」の出版には、先生またあんな本を出して大丈夫ですか?と尋ねると、笑いながら、「来ない! こっちは手ぐすね引いて待つんだだけだね!」と。またあるとき、この先10年間の仕事はすでに決まっています。あの夏、「西洋精神の履歴書」の大著を一気に書き上げる予定だと。「預言の構造」もほぼ構想は固まり完成間近とも。また河合継之助と吉田松陰を題材にした演劇も作成過程などなど。

先生は「ラディカリズム」とは過激の意味ではなく、ラテン語ラディクスの原義どおり、物事の根本にまで掘り下げたこととおっしゃった。あの悪夢の日から、27年目を迎えた。

## ～ H30.7. 追悼集から抜粋 ～

\*\*\*\*\*  
追悼集 ; 事件から7月12日で27年を迎える。それに合わせ、五十嵐さんの教え子らが、事件への思いや故人との思い出などをつづった追悼集を発行した。五十嵐さんの人柄や功績を後世に伝え、事件の風化を防ごうとの願いを込めた。  
編集 ; 伊藤庄一氏

# <ルポ・熊本高校の東京同窓会見学／卒20年生が毎年幹事>

平成30年7月1日(日曜・昼)東京プリンスホテル 東京青山から参加:長北学76回／川上康夫79回／森豊90回 記・工藤義夫74回

## 東京江原会・2018年総会・パーティー 2018.7.1(県立熊本高校「東京同窓会」)



### ◆はじめに◆

長北氏友人の紹介で東京青山同窓会4名が参加させていただきました！  
長北学,川上康夫,森豊,工藤義夫

熊高卒20年生が企画演出！謎の熱気と興奮！毎年幹事は次年生に代わり～20年来の伝統が根付く。

→我が東京青山会も、楽しい仕掛けをやってみよう！次回は元気な90期と101,102期で企画してみよう。

### ◆総会・パーティーの内容◆

・2018「総会・パーティー」  
場所 東京プリンスホテル2F 鳳凰間  
日時 2018年7月1日(日)  
一部 講演会 11:00～12:00  
二部 総会・パーティー12:30～15:00  
プログラム紹介  
第一部 講演会 11:00～12:00  
講演:『熊本地震文化財復興—熊本城と城下町への民間支援—』  
講師:矢野和之氏(高17回卒)、梅谷 佳明氏(高41回・平成元年卒)  
第二部 総会・パーティ  
同窓生と会って楽しく話そう！今年も盛り上がるイベントを沢山準備してお待ちします。熊本特産の食べ物・お酒も。司会・アシスタントはこちらで紹介。  
・事務局便り:年会費納入お願い  
東京江原会の活動費用は会員皆様の年会費で賄います。近年年会費収入は減少傾向を増し、節約に努めていますが、大変苦しい状況です。諸般ご多用中、本年度も年会費の納入よろしくお祈りします。  
・年会費:一般3,000 学生1,500円

### ◆熊高東京と東京青山の比較◆

東京会員数:7千人(東京青山:同程度)  
予算:4百万円/年(東京青山:百万円)  
総会:6百人&6百万円  
(東京青山:1百人&60万円)  
会報発行:年2回,4頁?  
(東京青山:年2回,12頁...多い?)  
事務所:専用開設(東京青山:なし)  
行事:多数  
(青山:偶数月第2火曜会,ゴルフ会等)  
年会費:3千円,学生半額  
(東京青山:2千円...学生半額に?)

### ◆以下、見聞録◆

・幹事会:高51期(東京だけでなく、熊本等からも応援多数)...毎年、卒業20年目が担当。前年から、幹事期は、何度も会合を重ね、先輩達に負けないう知恵と工夫を重ねる。東京江原会のこうした幹事制度は今では伝統としてしっかり根付いてきた。

・幹事世代:高卒後20年という設定は、ある人の言によれば、社会に出て仕事も中堅となり漸くまわりを見る余裕も出て、家庭等では子育ても半ばに差し掛かったとき、ふと、故郷・学校のことも振り返る時期に来る頃。この時に、学校をふと懐かしくも思うことから、人生の中間期に再会してきたくなる場をつくる。子供達も沢山いた。或OB言、20年かけて漸くここまで来た！  
・配慮:演出;託児所、熊本名産品販売も。  
・講演会:総会前段。参加自由。熊本地震の文化財の復旧等。熊本城復旧談  
・総会:たっぷり3時間。高齢世代は着席テーブル。壮健世代は立食用テーブル。3方壁際椅子席も。会場中央に、バイキングビュッフェ設置、多種多様な料理を次々と繰り出す。お酒各種飲み放題、熊本特産しゅうちゅう等。会場外では物品販売も。  
・挨拶:熊本江原会、東京江原会、学校長など。幹事等。  
・来賓紹介:姉妹校等も多数(地元済々黌、熊本北高等、福岡、松山東、仙台二高等々)。  
・英国イートン校(毎年留学生あり。今年は欠席:皇太子家愛子様夏季留学準備)も。随分世界にも広範囲にネットワークを持つ。  
・懇親会:リアルタイムで全世界にネット中継も(若手達の発想)。司会者にOBプロ。くまモンも登場。物品販売や新作焼酎(時習館)宣伝等も。  
混声合唱団の出物。校歌応援歌では。学生服姿の見事な様式美も。終わりのラグビー一部由来の「げんこつ」ダンスが楽しい。3年生で毎年1人選ばれる「げんこつ男」のスクワットに合わせ皆で声を合わせてスクワット男の限界までげんこつ！げんこつ！と声を上げ続ける本当に謎なイベント。  
・会場内では、そろいの江原会の法被を着た幹事期の高51期生がきめ細かく、サービスを展開、こまごまとした要望・注文等にも一生懸命に対応。また、今年東京の大学に来た新人(高70期の一部、全体で3～4十人ほど)の女性達が受付、周囲で案内役も。みな、何かしら、一役担っているようだ。なお、会場外では、最寄りの駅出口付近にも、幹事会メンバーが居て案内も。  
・会場内では、そろいの江原会の法被を着た幹事期の高51期生がきめ細かく、サービスを展開、こまごまとした要望・注文等にも一生懸命に対応。また、今年東京の大学に来た新人(高70期の一部、全体で3～4十人ほど)の女性達が受付、周囲で案内役も。みな、何かしら、一役担っているようだ。なお、会場外では、最寄りの駅出口付近にも、幹事会メンバーが居て案内も。  
・全体:伝統の年次幹事期制度が根付き、盛り上げに奔走、期の一体感も生まれる。そして、その熱気が次幹事期にも否応なしに伝搬する好循環！

自校だけにとどまらず、海外を含む全国の姉妹校(姉妹同窓会?)にも門戸を拡大し、多様性・横展開も保ちつつ故郷も思う。同窓会には各種部会・同好会も盛ん。旅行会なども...

東京同窓会だけでも、各種行事が目白押しに予定される。毎月、自由参加飲み会の場が設定されていていつでも立ち寄ることができる(例:OBの店で開催・三水会:銀座)幹事期メンバーは何度も会合を重ね、企画・脚本を練り、そして親睦も深める。その他:新年賀詞会、新入生歓迎会、総会、幹事会、学生部クリスマスパーティー、就職相談会、講演会、史談会等々、諸行事も。また、ホームページ活用も各種PR/連絡/消息等活発に。参加費当日;一般1万円、20代社会人7、同伴5、学生4、新人2、各千円(事前振込は割引あり)。

◆感想◆ 東京青山同窓会にも、大いに参考となった。熊本の県民性や高校愛はやけに熱い！我々も東京青山だけにあえて拘らず、少し発想を広げてもいいのかなとも思う。(例えば、先ずは、東北・関西支部等交流、中央高校交流...他?等々)。熊高が20年かけて来たところを、5年で半分くらいを目指してみるとか...も。これから、次期幹事期の青山90期と、次世代の101/102期あたりとのタグにて、試行錯誤でトライアルして、次回からでも何ができそうかチャレンジを。何度か準備会などしてできる企画をしてみたいと思う。



<参考>各年学年幹事一覧；99~126回卒／卒業時設定・・・今、ほぼ全滅“有名無実”!? 東京のです!・・・幹事はどこへ行ったの?→「新たな」世代別リーダーを選ぼう!

◆ 99回卒 ◆

- 1組 ; 杉本 正美
- 2組 ; 足立 淳史
- 3組 ; 関口 真太郎
- 4組 ; 穂苅 貴奈
- 5組 ; 斎藤 冬樹
- 6組 ; 横山 豊
- 7組 ; 佐藤 文彦
- 8組 ; 井筒 誠
- 9組 ; 貝良塚 斎
- 10組 ; 大塚 隆夫
- 11組 ; 小柳 貴裕
- 12組 ; 上原 学

◆ 100回卒 ◆

- 1組 ; 藤塚 和弘
- 2組 ; 日村 達彦
- 3組 ; 斉藤 義雄
- 4組 ; 丸山 朋昭
- 5組 ; 荒木 智行
- 6組 ; 佐藤 正高
- 7組 ; 山口 雄三
- 8組 ; 丸山 奈津子
- 9組 ; 磯貝 宏
- 10組 ; 平野 剛
- 11組 ; 尾暮 克文
- 12組 ; 森 紀之

◆ 101回卒 ◆

- 1組 ; 高野 明
- 2組 ; 石川 靖秀
- 3組 ; 若山裕伸 → 新潟
- 4組 ; 佐藤 明範
- 5組 ; 佐藤 素之
- 6組 ; 大谷 里佳子
- 7組 ; 佐野 健太
- 8組 ; 阿部 憲幸
- 9組 ; 佐久間 淳
- 10組 ; 渡辺 啓嗣
- 11組 ; 村川 純
- 12組 ; 笠原久美子

◆ 102回卒 ◆

- 1組 ; 杉田英一郎
- 2組 ; 佐々木 大介
- 3組 ; 亀山 央樹
- 4組 ; 今野 智介
- 5組 ; 大坂 純一
- 6組 ; 伊藤 倫子
- 7組 ; 茅山 信行
- 8組 ; 伊澤 雄次
- 9組 ; 池田 聖
- 10組 ; 武田 純人
- 11組 ; 野本 将光

◆ 103回卒 ◆

- 1組 ; 春原 智子
- 2組 ; 田中 匠
- 3組 ; 両川 敦
- 4組 ; 江部直紀 → 新潟
- 5組 ; 田中 映子
- 6組 ; 赤塚 健太郎
- 7組 ; 米岡 紘子
- 8組 ; 坂井 圭子
- 9組 ; 小林 中
- 10組 ; 竹田 大作
- 11組 ; 相澤 英介

◆ 104回卒 ◆

- 1組 ; 小泉 聡洋
- 2組 ; 岩崎 聖
- 3組 ; 阿部 英信
- 4組 ; 山田 一孝
- 5組 ; 大貫 智宏
- 6組 ; 笹川 卓美
- 7組 ; 鈴木 敦
- 8組 ; 吉田 道彦
- 9組 ; 山口 紀子
- 10組 ; 谷川永一郎 → 新潟
- 11組 ; 横尾 一樹

◆ 105回卒 ◆

- 1組 ; 庭山 亮一
- 2組 ; 小林 俊彦
- 3組 ; 小松 健治
- 4組 ; 鈴木 誠
- 5組 ; 木村 篤司
- 6組 ; 小林 元也
- 7組 ; 品田 真理子
- 8組 ; 能田 大史
- 9組 ; 高野 剛
- 10組 ; 藤田 武彦
- 11組 ; 田辺 雄介

◆ 106回卒 ◆

- 1組 ; 石井 洋平
- 2組 ; 栗田 智未
- 3組 ; 山本 亜希子
- 4組 ; 遠田 優華
- 5組 ; 土田 幸宏
- 6組 ; 五十嵐 孝博
- 7組 ; 朴永 載
- 8組 ; 宮内 壮史
- 9組 ; 川崎 絵美
- 10組 ; 杉澤 希
- 11組 ; 山本 純司

◆ 107回卒 ◆

- 1組 ; 富山聡仁 → 新潟
- 2組 ; 法師 憲太
- 3組 ; 小池 麻里子
- 4組 ; 泉井 厚志
- 5組 ; 畑山 真貴子
- 6組 ; 小橋川 嘉樹
- 7組 ; 石川 悟
- 8組 ; 片桐 功
- 9組 ; 阿部 高宇
- 10組 ; 八木 俊太

◆ 108回卒 ◆

- 1組 ; 長谷川 慶行
- 2組 ; 山本 直子
- 3組 ; 樋浦 裕子
- 4組 ; 中原 綾
- 5組 ; 広田 充
- 6組 ; 小泉 達也
- 7組 ; 長谷川 真也
- 8組 ; 山田 清達
- 9組 ; 今田 夕焼
- 10組 ; 清野 悠太

◆ 109回卒 ◆

- 1組 ; 桜井 晶紀
- 2組 ; 佐藤 大輔
- 3組 ; 長谷川 幸大
- 4組 ; 飯島 聖
- 5組 ; 宮尾 紘史
- 6組 ; 堀明 元紀
- 7組 ; 濱口 智大
- 8組 ; 伊藤 真作
- 9組 ; 中野 晋也
- 10組 ; 三浦 未知

◆ 110回卒 ◆

- 1組 ; 片柳 豪
- 2組 ; 鈴木 祥之
- 3組 ; 鈴木 雄太
- 4組 ; 富田 正史
- 5組 ; 伊藤 誠
- 6組 ; 熱田 賢
- 7組 ; 大谷 江二
- 8組 ; 山口 光太
- 9組 ; 筒井 晴香
- 10組 ; 奥野 斐

◆ 111回卒 ◆

- 1組 ; 本間 香代
- 2組 ; 高井 信輔
- 3組 ; 西田 良一
- 4組 ; 酒井 克直
- 5組 ; 中俣 博之
- 6組 ; 渡辺 和也
- 7組 ; 岸 健介
- 8組 ; 磯部 太祐
- 9組 ; 罇 陽介
- 10組 ; 八木 直人

◆ 112回卒 ◆

- 1組 ; 吉田丈夫 → 新潟
- 2組 ; 岡崎 香織
- 3組 ; 丸田 力也
- 4組 ; 坂田 奈緒美
- 5組 ; 仲村 陽一
- 6組 ; 野上 真央
- 7組 ; 大坂 あゆみ
- 8組 ; 五十嵐 俊三
- 9組 ; 秋田 貴之
- 10組 ; 本田 裕介

◆ 113回卒 ◆

- 1組 ; 岡 嘉紀
- 2組 ; 山際 由香理
- 3組 ; 大澤 佑輔
- 4組 ; 吉澤 慎子
- 5組 ; 和泉 寛
- 6組 ; 廣野 信悟
- 7組 ; 荒木 健太郎
- 8組 ; 遠山 陽平
- 9組 ; 白井 良太
- 10組 ; 網干 千春

◆ 114回卒 ◆

- 1組 ; 信氏 美悠
- 2組 ; 成澤 祐太
- 3組 ; 鴨井 彩
- 4組 ; 大野 傑
- 5組 ; 野田 裕喜
- 6組 ; 齋藤 夏之介
- 7組 ; 佐野 満実子
- 8組 ; 笠原 あかり
- 9組 ; 清田 恵理
- 10組 ; 山添 正裕
- 11組 ; 船登 惟希

◆ 115回卒 ◆

- 1組 ; 郷 慎久朗
- 2組 ; 伊藤 美紀
- 3組 ; 保科 真理子
- 4組 ; 長場 俊之
- 5組 ; 本間 亮丞
- 6組 ; 熊倉 祐人
- 7組 ; 近 佳菜子 → 新潟
- 8組 ; 石川 達也
- 9組 ; 高尾 雄也
- 10組 ; 若林 祐

◆ 116回卒 ◆

- 1組 ; 清水 一希
- 2組 ; 小泉 佑典
- 3組 ; 伊藤 直也
- 4組 ; 池田 大陽
- 5組 ; 河合 友里
- 6組 ; 山本 大介
- 7組 ; 主藤 祥一
- 8組 ; 高橋 岳志
- 9組 ; 石崎 博子
- 10組 ; 本田 俊博

◆ 117回卒 ◆

- 1組 ; 福原 周
- 2組 ; 本多 俊介
- 3組 ; 畑山 雅俊
- 4組 ; 柳 瑠莉
- 5組 ; 菊地 友樹
- 6組 ; 呉井 洋太
- 7組 ; 村尾 泰輔
- 8組 ; 阿部 頼子
- 9組 ; 森岡 英樹

◆ 118回卒 ◆

- 1組 ; 小黒 広生
- 2組 ; 霜鳥 桃子
- 3組 ; 大高 健
- 4組 ; 柴山 宗一郎
- 5組 ; 荻野 高弘
- 6組 ; 樋口 聡一郎
- 7組 ; 小柳 友哉
- 8組 ; 頓所 詩文
- 9組 ; 小川 翔

◆ 119回卒 ◆

- 1組 ; 上野 幸
- 2組 ; 宮本 大
- 3組 ; 谷内 悠介
- 4組 ; 矢澤 友寛
- 5組 ; 田中 大樹
- 6組 ; 青木 慧樹
- 7組 ; 井神 優太
- 8組 ; 小竹 達也
- 9組 ; 飯田 圭祐
- 10組 ; 小林 侑介

◆ 120回卒 ◆

- 1組 ; 高橋 萌子
- 2組 ; 五十嵐 由香莉
- 3組 ; 中島 萌子
- 4組 ; 二ノ宮 まり
- 5組 ; 伊藤 愛莉
- 6組 ; 長井 沙弥
- 7組 ; 渡邊 愛理
- 8組 ; 笹川 大成
- 9組 ; 田中 未羽子
- 10組 ; 帆苅 晃太

◆ 121回卒 ◆

- 1組 ; 棚橋 春喜
- 2組 ; 土沼 純也
- 3組 ; 武田 駿介
- 4組 ; 阿部 真央子
- 5組 ; 伊勢 歩実
- 6組 ; 渡辺 修朴
- 7組 ; 比企 湖太郎
- 8組 ; 黒崎 朝妃
- 9組 ; 幸田 圭太
- 10組 ; 遠山 幸也

◆ 122回卒 ◆

- 1組 ; 柳本 佳奈子
- 2組 ; 松野 泰知
- 3組 ; 高橋 央
- 4組 ; 小松原 千愛
- 5組 ; 平松 八重子
- 6組 ; 角木 啓太
- 7組 ; 荒木 葉
- 8組 ; 拝野 怜嘉
- 9組 ; 齋藤 磨生

◆ 123回卒 ◆

- 1組 ; 目黒 晶行
- 2組 ; 小坂井 善将
- 3組 ; 本間 遼
- 4組 ; 駒村 萌
- 5組 ; 保苅 美音
- 6組 ; 伊井 都優美
- 7組 ; 小浦方 祐介
- 8組 ; 中川 篤紀
- 9組 ; 安田 聖

◆ 124回卒 ◆

- 1組 ; 田中 大夢
- 2組 ; 富井 浩紀
- 3組 ; 柳本 瑛彦
- 4組 ; 木野 正瑛
- 5組 ; 藪崎 瑛未
- 6組 ; 田中 大佑
- 7組 ; 王 思涵
- 8組 ; 武田 恒太
- 9組 ; 川村 鴻弥

◆ 125回卒 ◆

- 1組 ; 藤田 晃太郎
- 2組 ; 坂上 真樹
- 3組 ; 西山 寛人
- 4組 ; 佐藤 文哉
- 5組 ; 村山 光
- 6組 ; 入田 凌
- 7組 ; 青木 駿介
- 8組 ; 中野 真彰
- 9組 ; 長谷川 健

◆ 126回卒 ◆

- 1組 ; 相澤 健太
- 2組 ; 佐藤 黎司
- 3組 ; 桃井 啓光
- 4組 ; 佐藤 幸之輔
- 5組 ; 伊藤 あすか
- 6組 ; 土田 遼哉
- 7組 ; 船田 未来
- 8組 ; 原田 実希
- 9組 ; 神代 快

「おことわり」  
あえて個人名掲載



新たなリーダーも  
期待してます。  
“自薦・他薦可”  
ぜひお知らせを!

<東京事務局>





年会費納入者一覧 ; H30.4.1~H30.8.31

本会は、皆様の年会費で運営しております。ぜひ、納付のご支援ご協力をお願いします。

注釈
<>内数字 ; 単位、千円
(○年分 ; ~年まで、等)

- 50回(1名) 上村光司
51回(1名) 北村 茂
52回(3名) 小嶋嘉彦 齋藤泰五郎 廣川 勲
53回(1名) 中島常雄
55回(1名) 千葉繁治
56回(5名) 赤坂長弥 網干道雄 井上菊雄 加藤勝則 清野誠二
58回(3名) 浅田秀雄 片桐欣哉 岸田 博
59回(11名) 板井 裕 梅沢貞雄 岡田 久 笠井 駿 小村幸久 茂泉喜彦 関野光弘 高橋晴夫 高山昇二郎 長橋敏雄 納谷喜郎
60回(12名) 池浦厚司 金山常吉 小林吾郎 小林 満 齋木守雄 杉野剛博 高城英雄 中田 亨 長谷川秀三 早川貞夫 藤本 剛 丸山敏規
61回(17名) 安宅久憲 安藤友憲 伊藤英子 大橋恒夫 木村政雄 草間光俊 熊谷隆幸 小林孝司 小林元雄 小山達人 助川孝雄 竹尾 昇 田中 宣 徳田晋也 長沼雄峰 村岡公夫 村山 健
62回(9名) 石黒 恒 内山隆之 小池健治

- 近藤哲朗 <3> 曾我 健 手操 聰 嶺 國和 渡辺貢英 渡辺千里
63回(4名) 浅野康一 五十嵐房子 市川瑞夫 白倉 至
64回(17名) 岩淵道夫 植村鞆音 太田健治 <3> 風間治雄 川井文夫 坂井俊一 佐藤茂司 清水良男 須田嶺治 高橋正幸 田才邦彦 田辺元彦 田村康一 藤澤靖郎 星 満 榎瀧晴夫 松田 勲
65回(6名) 安藤宜清 五十嵐 徹 佐藤武行 濱田庄市 山本和親 横山修二
66回(4名) 石山芳春 稲月喜一 高橋 守 吉田六左エ門
67回(10名) 岡崎 功 小野勝義 片桐靖忠 片山忠一 北村紘一 佐々木邦夫 寺井 宏 西 章 前田康久 三堀 浩
68回(8名) 上村嶺子 草野 佐 小日向信光 竹石 肇 重野康人 西脇雄一 原 信一 萬歳英美子 三田村健一 宮嶋良夫 若林源基 渡部終五
69回(6名) 青木利祐 小黒朋弘 佐藤孝靖 菅沼 浩 高木敏之 矢川一義
70回(6名) 池田好正 猪口 孝 札木俊明

- 菅原一雄 山宮士郎 渡辺允雄
71回(9名) 五十嵐 勲 内山博勝 太田 裕 柄沢 卓 齋藤 誠 高橋 忠 堀 清忠 松田裕子 宮村達男
72回(13名) 神林賢治 小嶋修一 小林正昭 近藤 正 齋藤俊正 篠原一博 菅又 滋 富田由李 <5> 中地光子 西村正徳 <10> (5年;~2021) 野村耕治郎 古山恒夫 宮村 晋 <10> (5年;~2022)
73回(3名) 雨宮則夫 飯村 修 山田美成
74回(32名) 藍沢幹人 青海 潔 味方 冽 <3> 池 一 池田正行 池田 裕 和泉 潤 大滝 均 岡村康生 <10> (H30年度分含) 片野忠一 菊池 隆 工藤義夫 解良和郎 小林淳子 齋藤一幸 坂井 靖 坂爪久男 佐藤俊栄 佐藤信秋 <6> 関川修一 高橋信郎 田村荣作 土屋彰義 堤 葵 西田百合子 西脇雄一 原 信一 萬歳英美子 三田村健一 宮嶋良夫 若林源基 渡部終五
75回(17名) 有蘭順子 五十嵐 正 笠井 忠 川上 滋 木戸 守 小泉慈行 後藤輝雄

- 鈴木正夫 白鳥十三 橋爪博美 服部 昭 馬場俊博 萬歳信行 深沢義和 藤井建一 藤縄利勝 渡部一俊
76回(35名) 青山耕一 明村澄雄 朝妻 厚 阿部令一 阿部緑生 天野直二 板羽 健 岩橋俊朗 大竹力三 <5> 大山哲司 加澤正樹 賀谷彰弘 木下正仁 久住 治 蔵持典与 後藤徳広 小宮山信男 近藤壽邦 指田久美子 <3> 鈴木茂夫 曾田修吉 田中邦直 太原まゆみ 中川英二 <3> 長北 学 西沢芳樹 長谷川邦良 八田進二 林 誠 <3> 細谷洋一 丸山俊夫 湊 勝 <3> 湯本雅恵 渡辺 拡 渡辺雅夫
77回(6名) 石川 彰 片山 等 北村一雄 佐藤 茂 長谷川 実 山田民夫
78回(9名) 石丸隆夫 太田秀樹 齋藤庫之丞 志藤洋子 篠田敏朗 滝沢道夫 高井博英 肥田博子 前田長生
79回(7名) 内山 修 <5> 小田章治 <3> 河 正子 川上康夫 星名健二 鳥羽正尚 富山浩司
80回(7名) 青木隆次 長 正子 <4> 大霜博之

- 小林亮介 齊藤正春 清水洋一 竹本泰子
81回(5名) 荒川 洋 越野昌芳 成海孝二 山田 徹 <3> 鰐淵 博
82回(8名) 栄森秀一 日下部朋子 小亦 斉 齋藤 滋 内藤 理 西山活子 福嶋 元 宮村伸一 <4>
83回(7名) 浅間芳朗 遠藤光郎 高山佳郎 豊田 清 野呂映人 <5> 山口虎彦 横山 修
84回(8名) 飯塚雅士 太田淑子 島津 孝 田崎正巳 田中昌夫 野口俊介 横 昌樹 星野紹英 <10>
85回(10名) 浅田浩義 今井豊茂 奥村 基 澤井伊知子 塩田拓哉 田中 清 苔米地 令 森 大輔 吉田真吾 <10> 渡辺友紀子
86回(3名) 齋藤 健 宮腰重三郎 吉井正行
87回(2名) 清水忠明 南 正人
88回(4名) 今井信一郎 大越健介 <5> 小竹 聡 櫛谷洋史
89回(4名) 岩野尚子 紺野由紀子 山田敏昭 渡邊克彦
90回(17名) 雨宮喜美子 池田美弥子 歌代真人 歌代幸子 勝山達志

- 木村和人 小林 到 小林美奈子 齋藤 彰 齋藤結花 白川 裕 坪井茂樹 中村 泰 樋口正史 森 豊 渡邊修也 渡辺正明
91回(1名) 長田 充
92回(2名) 上杉恒彦 前田光俊
94回(1名) 小松朋子
99回(1名) 君和田俊裕 <5>
101回(5名) 阿部智信 小田和哉 後藤 卓 本間昌治郎 柳下史織
102回(2名) 尾口優子 廣瀬千尋
103回(3名) 小林 崇 廣川俊之 鷲尾英一郎
104回(1名) 佐藤 晃
105回(1名) 柳通こずえ
106回(1名) 星野善宣
110回(1名) 石崎 徹
113回(2名) 佐藤あずさ 関 佑樹
115回(1名) 小甲洋輔
116回(1名) 本間友香理
117回(1名) 宗村泰孝
119回(1名) 塙 孝哉
120回(3名) 石附 愛 大岡敏治 宮本真理子

- 121回(1名) 柄澤友幹
122回(2名) 加藤 爾 田中麟太郎
123回(1名) 五十嵐 将
124回(2名) 寺井 悠 瀨谷美月
126回(11名) 青木成美 伊藤壮史 齊藤百歌 高橋美結 土田達哉 長浜朱音 庭野ほのか
以上 計371名 (~2018.08.31)

上期で目標の “8割”クリア! ↓ 下期で達成へ。 よろしく お願いします!

目標 450名! 当同窓会は皆さまの「年会費」によって運営しています。年会費納付のご協力をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。